



No.67
 2024.12.13
 発行；特定非営利活動法人
 所沢市学童クラブの会
 広報委員会
 所沢市くすのき台2-20-6
 Tel；04-2994-6753

所沢市民フェスティバル

今年も、十月二十六日二十七
 日で行われた所沢市民フェスティバ
 ルに「ダンボールめいろ」と「ペー
 ゴマ教室&大会」で参加しました。
 両日とも天気恵まれ、大盛況で
 した。

ペーゴマ教室&大会

一日目のペーゴマ教室は百名近
 い参加でした。すぐには回せない
 ペーゴマですが、何度も挑戦して
 やっと回せたときは、みんな嬉
 び合います。初めてペーゴマに挑
 戦した親子が二人とも回せるよう
 になり、親子対決が実現！もあり
 ました。

二日目のペーゴマ大会市長杯は、
 エントリー百三名。熱い戦いが繰
 り広げられ、大盛況でした。
 小野塚市長が、開会式と、急遽
 表彰式にも出席してくださいまし
 た。



ダンボールめいろ

ダンボールめいろは二日間で延べ二九二四人
 の子どもたちが参加してくれました。迷路に並
 んでいるときも出てきた時も、ドキドキワクワク、
 ゴールの達成感などなど、子どもたちのき
 らきら輝く表情がたくさん見られました。



グループ学習

今年度、職員部会では、「職員が自主的・主体的に、保育で生かせることを学ぶこと」を目的にグループ学習会が復活しました。六つのグループが立ち上がり、年三回の研修をおこなっています。

今回は三つのグループを紹介します。

音楽を楽しもう！

コロナ禍を経て行事も縮小となり、学童保育の中で音楽に触れる機会が減ったように感じます。そんな中、音楽に触れる、考える機会をつくり、保育につながる引き出しを増やすことを目的に立ち上げました。



メンバー五人が挑戦してるのは、ハンドクラップと楽器演奏です。ハンドクラップは手を叩いてリズムを奏でるのですが、自分のリズムを叩きつつ、仲間の奏でるリズムに合わせる、つられないようにする、強弱・一定のテンポなど、想像以上に難しいことを実感。

これは是非他のみんなに紹介したいと思い、職員会議の場でハンドクラップを体験してもらおうと、五人の時とはま

集め、仕上げ用の乾いたサラサラの砂を集めるのにも一苦労。

指導員は保育中に一つのことに時間を費やすことが難しいため、どろ団子を完成させることもなかなかできません。どろ団子を作るのも自分だけでなくの頃以来！という指導員もいました。どろ団子を光らせることは簡単ではありません。新人からベテランまで幅広い仲間が集まり、童心に帰

り、夢中になるという気持ちの思い出し、子どもたちの気

持ちに一歩も二歩も近づきました。

(グループ学習会「がくドロン」のマスコットキャラクター「がくドロン」も誕生しました！)



た違い、リズムが段々と増えていく盛り上がり、全員が合わさった時の迫力、最後は音がピタッと止まる爽快感に改めて音楽の楽しさ、素晴

らしさを感じました。

二回目学習会では、より上級のハンドクラップ、楽器演奏の練習を重ねると、同じ楽譜なのに朝よりも音が読みやすくなっている！と脳みそが音楽スイッチに切り替わったような体験をするなど、演奏だけでなく音楽の奥深さも楽しんでいきます。今後も「音を楽しむ」を第一に音楽に触れていきたいです。

こいつめばー！

保育に使える遊具づくり・施設環境を整える道具づくりを考へ制作するグループです。

ファストトラック製作中！



「がくドロン」は「どろんどろん」をテーマに立ち上がったグループ学習会です。

子どもたちがどろんどろんと遊ぶ姿はとてもキラキラしています。子どもたちと同じ目線で泥にまみれながら、その活動を通して子ども理解を深め、保育の幅を広げることが目的に活動をしています。

第一回、二回の活動ではどろんどろんづくりをしました。雨日もあいにくの雨で、団子のベースになる粘土質の土を

今日のおやつはなあに？

季節とわくわく感を届ける手作りおやつ

「美味しかった！」
おやつを食べた子どもから、その言葉を聞くのが一番の楽しみです。

今度は何を作ろうか・・・時にはネットや本からアイデアをもらいながら、新作おやつを考えます。私が大切にしているのは、既製品のお菓子にはない季節感やわくわく感を届けること。また、おやつ

を作る時には、その日の気温や季節も考慮します。寒い日には温かさを、暑い時には涼を届ける。日本の四季を「食」から伝えられたらと思います。

ちなみに、私の自信作は「たむちゃん焼きそば」「たむチャーハン」「なんじゃもんじゃ焼き」など。その時々でアレンジを加えながら日々研究中です。今回は、そんなたむちゃんお



「子どもがオーダー！
手作りクレープ」
わくわく度★★★
ハロウィーンや卒業
式などのイベントでオ

ブンするのがクレープ屋さん。生地から手作りし、子どもがバナナやチョコ・ストロベリー・ブルーベリーソース、生クリームなどからトッピングをオーダーします。「おかわり！」の声が聞こえる大人気おやつです。

かほかワントンスープ」
季節感★
味付けしたひき肉や玉ねぎなどの具材を入れたワントンスープ。生姜をたっぷり入れた体が温まる逸品です。こちらも大好評で、鍋一杯に作ったスープは売完でした。

初めての手作りおやつ

指導員として初めての手作りおやつを十一月に行った。

私も学童の手作りおやつを食べて育ったので実際に出す大変さや子どもの反応も見て実行した。

メニューは麺類に決めた。汁物ではないものの方が安心。野菜も無理なく入れられると思いつどんに決定した。休みの日に自宅で作ったり、学童の調理器具を点検したりして準備を進めた。

当日、四十人以上の料理を一から作ることを経験したことがなかったので、予想以上に時間がかかってしまった。

子ども達が帰って来た時にまだ調理していたので焼うどんの匂いにつられて見にくる子が多く、「今日のおやつだ



よ」と伝えると「ほんと？」
「楽しみ」と声が聞けてうれしかった。その反面自分の味付けが大丈夫かなと不安も大きくなっていった。

たくさんの子がおかわりをしてくれて「おいしいからおかわり」「自分のリクエストの時にこれを頼もうかな？」と言ってくれる子もいて安心と喜びがこみ上げてきた。

この日の子ども達の様子や感想から個人的には大成功だなと思った。と同時に、また次をやろうと思えた。



午前中の準備風景

松井学童クラブ 田村 智
若松学童クラブ 中田 恭平



田村 智 指導員

松井学童クラブ

人と関わる仕事がしたいと「指導員募集」の記事を見て応募しました。それから四十年以上続けられていると思うと、学童クラブの支援員という職との「出会い」は、自分にとってかけがえのないものだと感じています。

れます。六年生になった時に「あ〜一年生のときはこんなだった」なんて思い返して、成長をかみしめる瞬間があるんですね。

クラブでは子どもに「だむちゃん」と呼ばれています。指導員のことを愛称で呼ぶ。これもまた、学童特有の文化だと思います。指導員という職は「先生」とは違う、より子どもが親しみやすい存在でありたいと思っています。



「がくどん帽子」製作中

学童の「場」をより居心地の良い楽しい場所にしたいたいと思い始めた「田村工務店」。幸せの種を増やそうと、注文があれば、まかせて安心・信頼・迅速・丁寧の田村工務店の作品があちらこちらのクラブに生まれています。

一輪車置き場やサッカーゴール。テープルの天板を再利用し、おやつのおき棚などを作りました。木材や端材を集めてなるべくコストを掛けず作ることに得意です。自分が作ったものが学童の一部になってみんなに喜んでもらえることも嬉しいですね。学童に子どもが「ただいま〜」と笑顔で帰って来る場所にしたいたいと思います。学校や家で嫌なことがあるても、感情を素直に出せる「居場所」を作りたいと。これが一番大切にしていることです。そして、好き勝手に感情表現をするのではなく、感情の表現方法も一緒に考えられたらなどと思います。たくさん「嬉しい」「や」「悲しい」「悔しい」などの気持ちを共有できる存在でありたいです。

子どもは、昔も今も大きくは変わっていないと感じますが、四十年前のことを思い返すとたつぷりと時間もあって夕方まで思い切り遊んでいたように思います。ガキ大将的な子どももいて、良いところ、悪いところを含めて憧れる存在になっていました。身体どうしがつかるけんかをすることもありましたが、お互いを認め合う仲間意識も強かったと思います。

子どもたちには、自分や友だちをもっともっと知ってほしいと思います。たくさんの人と関わって、いろいろな感じ方や考え方に会ってほしい。そんな場所の一つに学童がなれたらうれしいです。そして、自分の人生を思いっきり楽しんでほしいです。卒所した子どもたちから「楽しくすごしてます!」「今も〇〇続けてます。」「という言葉を聞くのが楽しみの一です。

これからも学童は、子どもたちが安心して生活できる場、そこで仲間と過ごす時間を大切にしたいと思っています。



松井学童クラブ

編集後記

今号は、グループ学習会と手作りおやつの特集を組みました。私は、学童保育の仕事は自分の「得意」「好きなこと」を活かせる仕事だと思っています。そしてその「得意なこと」「好きなこと」をさらに追及し、職人のように極めていく指導員が、クラブの会には多いと感じています。

音楽も泥団子も工作もおやつ作りも、指導員が生き活きと取り組んでいる様子が伝わってきます。きっとその先の保育の中では、子どもたちが一緒に夢中になったり楽しんでくれたり喜んでくれたりして、そのことがまた指導員の喜びとなる。そんな物語がありそうだなと想像します。学童保育だからこそできる保育の豊かさの追求ではないかなと思います。

今年も残すところあとわずか。寒さも厳しくなってきました。この時期になると毎年編み物がやのたくなります。編み物をしてながら年を越す。毛糸を買って終わってしまひ年もあつたが、今年はまだやろうな気がします。みなさま、よいお年をお迎えください。

(編集)